

1. 教育の責任

多様な文化も持つ人々の背景を理解し、必要な看護を自ら考えることができる人材の育成を行う。

2. 教育の理念

日本のグローバル化に対応できる看護師を養成するために、日本で暮らす外国人の背景や文化への理解を深め、適切な医療や看護が提供できるよう支援や看護ができる看護師を養成している。また、国際看護学実習においては、学生が諸外国と日本の文化の違いを理解し、多様な人々への尊厳と共生につながる看護へと発展できるような異文化の中での教育と実習を展開している。

3. 教育の方法

国際看護学実習ⅠとⅡでは、日本で暮らす外国人のもつ文化的背景や価値観できるよう、地域における定住外国人支援センターや多言語センターで生活に密着した看護現場で実習を行っている。また、JICA や検疫所など、日本における医療や看護、感染症対策の実際と課題について学びを更に深める機会としている。

国際看護学実習Ⅲでは、MOU を締結している ASEAN 諸国の大学や病院で 1 週間学び、その国の医療システムや教育、文化がどのように看護に影響を与えているのかを実際に見学・研修し学ぶ機会としている。

4. 教育の成果

学生は定住外国人や諸外国における医療や看護の実態を理解し、課題への取り組みについて考察を深めている。また、MOU を締結している看護系大学の学生との交流なども活発に行い、諸外国の現状や今後の日本の医療や看護での取り組みについても意見交換を行っている。

5. 改善への努力と今後の目標

学生が自らの意見を臆することなく英語でプレゼンテーションできるよう、演習中は少数のグループに分けて実施できるようにしている。今後は、臨床で利用できる英会話をアウトプットすることができるよう、より一層、学生からの発話の機会を増やすことで、スピーキング力を促す。

【添付資料】